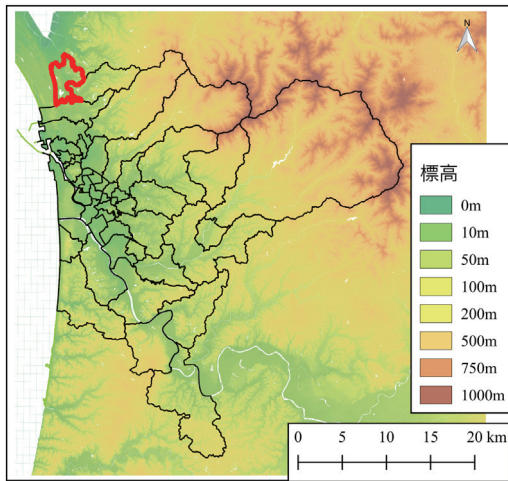
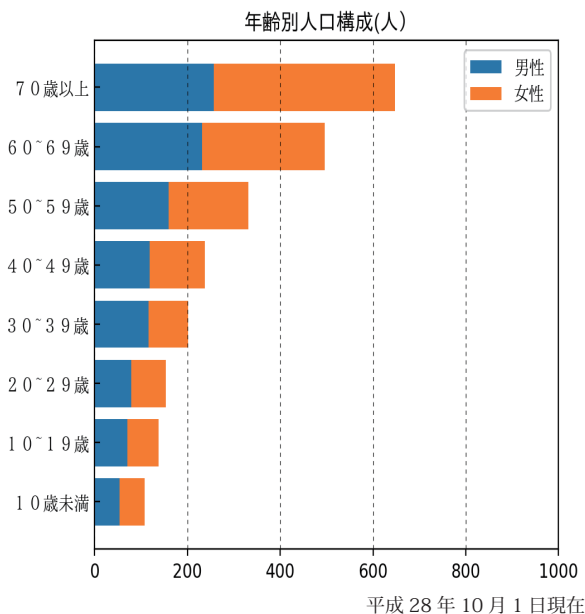


位置図



1 居住者の現況

人口（人）	2,316 人
世帯数（世帯）	903 世帯
65 歳以上人口（人）	912 人
10 歳未満人口（人）	107 人



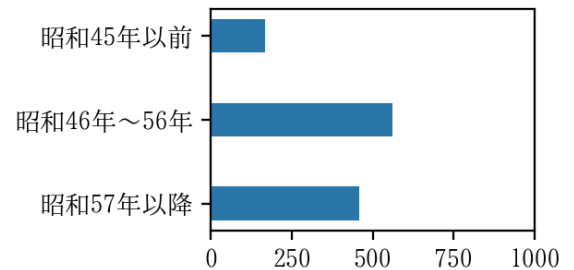
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	1185
非木造建物	53

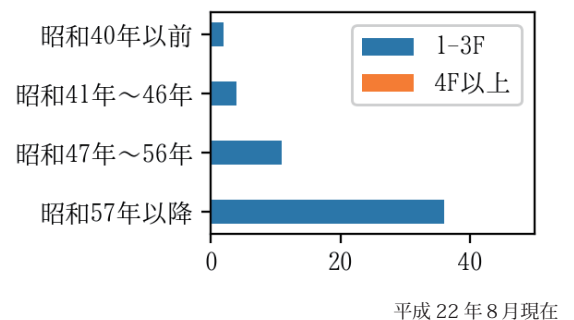
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	459
昭和46年～56年	560
昭和45年以前	166



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	36	0
昭和47年～56年	11	0
昭和41年～46年	4	0
昭和40年以前	2	0



自然的・社会的基本指標

秋田市の北端に位置しており、潟上市と境界を接している。学校区の中央部は平野で、男潟、女潟といった沼地や湿地がある。平地の端部付近に急傾斜地等危険地域がある。国道 7 号に沿った西部地区が市街化区域に含まれる。1983 年日本海中部地震では、地盤の液状化が発生した。集落は平地と丘陵部の境界付近に分布する。人口の減少傾向が見られ、かつ 65 歳以上の高齢者層は全体の約 40% に達する。木造建築物が大半を占め、昭和 56 年以前に建築された旧耐震建築物が約 60% を占める。

3 自然災害に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 洪水

	指定河川	(該当なし)		
	浸水面積 (%)			
	最大浸水深 (m)			

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

	種別	箇所数	主な指定箇所
	急傾斜地崩壊危険箇所	4	金足岩瀬、金足堀内、下刈、前田
	土石流危険渓流	2	小草生津沢、コフラゲ沢、深田沢、山崎沢 他
	地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
	なだれ危険箇所	0	該当箇所なし

* 土砂災害警戒区域

	種別	箇所数	主な指定箇所
	土砂災害警戒区域	6	岩瀬沢、佐渡の沢、金足岩瀬、金足堀内、下刈、前田
	うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震（どこにでも起こりうる直下の地震：M6.9）

	平均震度	震度 6 弱	
	(計測震度)	(5.95)	
	震度 6 強以上となる面積 (%)	49	
	液状化危険度ランク	4	
	建物全壊率 (%)	5.8	

* 津波（秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合）

	浸水面積 (%)	(該当なし)	
	最大浸水深 (m)	(該当なし)	

4 災害時要配慮者に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 要支援者関連施設（収容施設のみ）

	種別	施設数
	高齢者支援	3
	婦人幼児支援	0
	障がい者等支援	5

■ 幼稚園・保育所等

	種別	施設数
	保育所等	0
	こども園	0
	幼稚園	1

■ 学童支援施設

	種別	施設数
	児童館等	2

■ 学校等

	種別	施設数
	小学校	1
	中学校	0
	高等学校	1
	大学・短大・高専	0
	養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 消防関連施設

	消火栓数（箇所）	23
	防火水槽（箇所）	21
	消防車台数（台）	12
	消防ポンプ数（台）	5
	消防団員数（人）	151

■ 避難所／避難場所（別表参照）

	災害種別	施設数
	洪水	3
	土砂災害	3
	地震	3
	津波	0
	福祉避難所	2
	津波避難ビル	0
	津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

	種別	名称／箇所数
	管轄消防署	土崎消防署
	管轄警察署	秋田臨港警察署
	病院・医院数 (歯科を除く)	0
	最寄りの救急告示病院	秋田厚生医療センター
	自主防災組織数	20

自然災害時の危険要素

金足西小学校区内では、河川氾濫による浸水域は想定されていないが、学校区の中央部を南北に低平な潟沼や農耕地があり大雨の際には内水氾濫が発生することが懸念されている。地震時には、丘陵部より低地部の方が揺れやすく、液状化の恐れもある。津波による浸水の恐れはきわめて低い。

防災上の課題と対策

金足西小学校区は、秋田市の北西端に位置しており、緊急輸送道路である国道 7 号、秋田自動車道、および県道秋田昭和線が南北に走っている。国道 7 号周辺は建物が多いものの、それ以外では平地と丘陵の境界部に集落が点在しており、建物の密集度は低い。人口構成は、若年層ほど比率が低下しており、65 歳以上の高齢者が全体の約 40%を占める。

小学校区内にあっても、大雨による洪水（内水氾濫など）や、土砂災害、その他地震災害などは集落の立地条件により災害の種類、程度が集落単位で異なる状況が発生する可能性がある。避難施設までの避難距離がかなり長い集落も多い。住民に避難所の位置や危険箇所を知らせ、住民各自が災害時に的確な対応がとれるようにしておく必要があるとともに、集落単位で防災訓練などを活用して、災害の種類に応

じ多様な避難の方法を、住民自ら検討し取り決めておくことが有効である。	
------------------------------------	--

■ 避難所・避難場所

施設	指定 避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ / 土石流	地震	津波	大規模 火災	
金足地域センター	○	○	○	○	x	x	72 人
金足西小学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	264 人
金足西小学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	6,925 人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
げんきハウス金足	金足追分字海老穴 222	018-872-1116
げんきハウス下新城	金足追分字海老穴 222	018-872-1116

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

